

紙おむつの下水道放流に反対！

島崎 京子

世界的に海のマイクロプラスチック汚染が広がる中、EUを初めとして各国で使い捨てプラスチックの使用を禁止したり制限する動きがある中、日本では情けないほど逆行するような紙おむつ下水放流などという検討が始まっています。

国土交通省は、今年1月31日に、使用済み紙おむつを下水道に流す仕組みを検討するため、研究者、自治体、業界団体、厚生労働省、国土交通省による「下水道への紙おむつ受入実現に向けた検討会」の初会合を開きました。介護施設や保育所や家庭で、使用済み紙おむつの保管やごみ出しが負担になっていることから、介護や子育ての負担を軽減するため、専用の粉碎機で紙おむつを粉碎した上で下水道に流せるようにしようとします。

今後、下水道管が詰まらない紙おむつの素材や粉碎機の開発、下水処理場での浄化、環境への影響などを検討し、5年間で実用化に向けたガイドラインをまとめる予定だそうですが、合流式下水道からプラスチックが流出したり、下水処理場の放流フィルターをくぐり抜けて微細プラスチックが流出するなど様々な懸念があります。

容器包装の3Rを進める全国ネットワークからの呼びかけに応えて、当会でも、4月6日、下記のような意見書を「検討会」宛てに送りました。



photo by go7o

要望書

日の出の森・支える会は「日の出の森を廃棄物から守る運動を支える一万人委員会」として1994年に発足し、今年で24年目になります。この間、処分場による被害を受けた地元住民の活動やトラスト運動を支援し、全国のごみ問題に取り組む人々と協力して「ごみになる物は買わない、つくらせない」「ごみの焼却・埋め立て処分の見直しを」「ごみ減量、資源循環型社会の実現を」と訴えつづけてきました。

貴検討会では、使用済み紙オムツを破碎して下水道に流すことを目指しているとのことですが、プラスチック系の素材が多く含まれる紙オムツを破碎した場合に生じるマイクロプラスチックが川や海に流れ出ることが懸念されます。

とりわけ、合流式下水道から雨天時に処理能力を超えた下水の一部が未処理のまま放流されています。ごみや白色固体物（オイルボール）などの流出を抑制する水面制御装置などの整備が進んでいるとのことですが、5年以内にマイクロプラスチックなどを100%除去することは困難だと思われます。

プラスチックには有害物質が添加されており付着していることが多いので、海に流れ出たマイクロプラスチックは、低密度であっても、食物連鎖を通じて濃縮されます。実際に、魚や水鳥などの体内からプラスチックや、そこから溶け出したと見られる有害物質が見つかっています。海のマイクロプラスチック汚染は世界中で懸念されています。

以上、様々な懸念があることから、紙オムツを破碎して下水道に流す計画を中止してください。